

2. 調査実施概要

調査の背景と目的

背景

- 近年、ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みが進むなか、トランスジェンダー等性的マイノリティの働きやすい職場づくりの一環として、「職場でのトイレ利用」が大きな課題のひとつとなっている。
そこで、2017年10月～11月には顔見知り同士が利用することで、課題がより深刻になりやすいオフィスのトイレに焦点を当て、「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する調査」を実施し、2019年5月に結果を公開。
- さらに、多様性と公正性、包摂性のある社会を目指し、性の多様性についても理解が徐々に広がりを見せるなか、前回調査を実施した2017年当時と比べ、LGBT等性的マイノリティを取り巻く社会環境も変化しつつある。
オフィスだけでなく、公共施設においても性別を問わず利用できるトイレ（男女共用トイレ）の設置が検討され始めている。
- 一方で、未だにLGBT等性的マイノリティへの差別が解消されないなど課題があるのも事実であり、SNS等でトランスジェンダーへの誹謗中傷が加速している。特にトランスジェンダーのトイレ利用については大きな論争となっている。

調査の目的と方法

- 性自認（ジェンダー・アイデンティティ）に関わらず、**誰もが『安心して、快適に利用できるトイレ環境』を明らかにすること**を目的とし、前回の調査から5年が経過した2022年11月に、再度調査を実施した。
- 今回は、オフィストイレに加えて駅・ショッピングセンターなど不特定多数の人が利用する公共施設のトイレについても調査を実施した。
- 日本在住の有職者であるシスジェンダー、トランスジェンダー両方を対象に「**WEB調査**」を実施。
＊これらの調査は、金沢大学人間社会研究域「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会の承認を得た。

本研究における「トランスジェンダー」の定義

WHOなど国際機関と学会^(注)による報告書に沿って、下記のように定義

トランスジェンダー

自身のジェンダーを、出生時に付けられたジェンダーとは異なるものとして認識している人

(注) The World Professional Association for Transgender Health (WPATH)

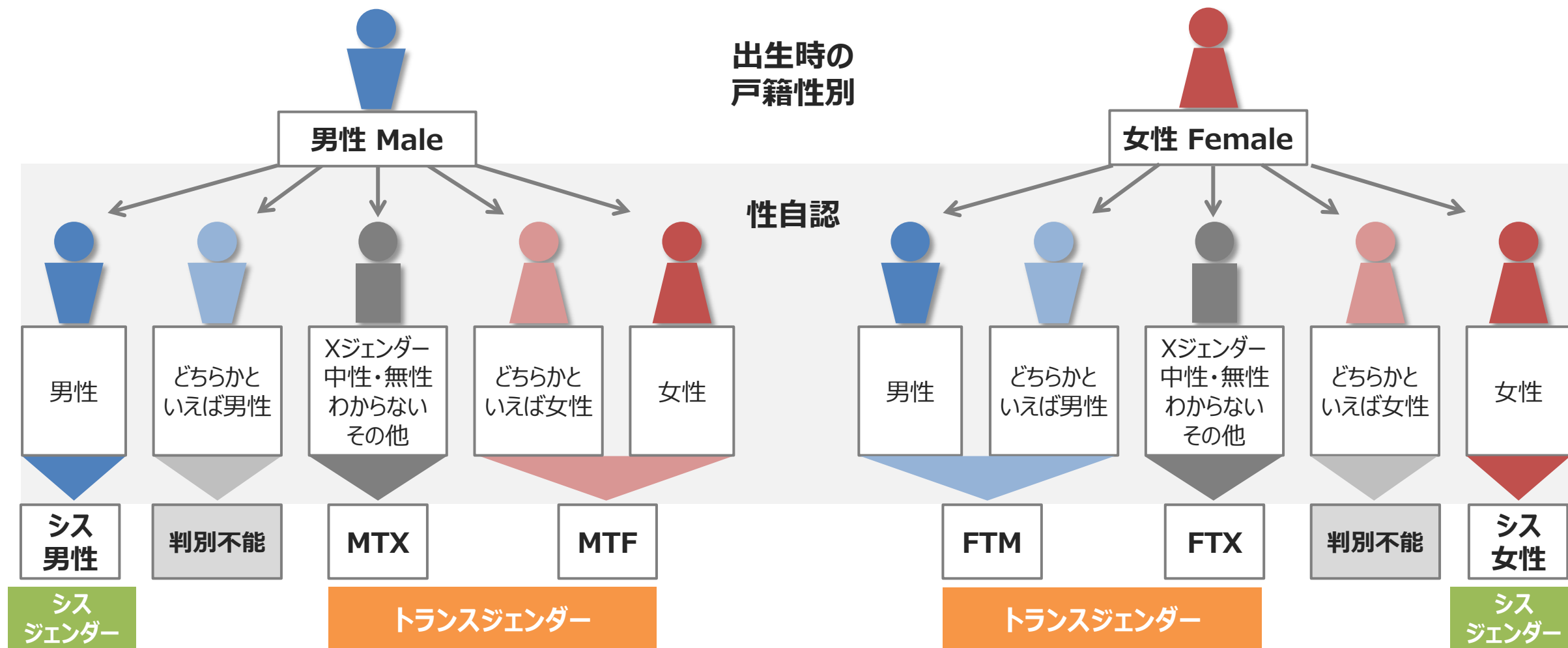
「出生時の戸籍性別」 $\neq$ 「性自認」 $\Rightarrow$ トランスジェンダー

「出生時の戸籍性別」 $=$ 「性自認」 $\Rightarrow$ シスジェンダー

※定義についての詳細は、p.9【調査におけるジェンダー区分の定義と分類】および
pp.10-11【補足：本研究における「トランスジェンダーの定義」について】を参照

調査におけるジェンダー区分の定義と分類

※図中の形や色分けは、わかりやすくするための便宜上のものです。型にはめたり多様性を無視するといった意図はありません。
※スペースの関係で、以降のページではトランスジェンダーをトランス、シスジェンダーをシスと省略している箇所があります。



出生時の戸籍性別と性自認から
構成されるトランスジェンダー4区分

MTX : Male To X-gender , **MTF** : Male To Female , **FTM** : Female To Male , **FTX** : Female To X-gender

補足：本研究における「トランスジェンダーの定義」について（1/2）

➤ 基本的な考え方：

WHOなど複数の国際機関・学会（WPATH：The World Professional Association for Transgender Health）が共同刊行した報告書に沿って、トランスジェンダーを「自身のジェンダーを出生時に付けられたジェンダーとは異なるものとして認識している人々」と定義して調査を行った。

※p.8【本研究における「トランスジェンダー」の定義】および p.153【参考文献 12）の p.xi】を参照

➤ トランスジェンダー回答者の判断方法：

回答者がシスジェンダーまたはトランスジェンダーのどちらに該当するかを確認するため、性別に関する以下の設問を設け、矛盾回答は「ジェンダー判別不能」とした。

Q.あなたの出生時の戸籍の性別をお知らせください。（単一回答）

選択肢：1.男性、2.女性

Q.あなたは、前問で回答した「出生時の戸籍の性別」と、現在のご自身の性別を同じだと捉えていますか？（複数回答）

選択肢：1.出生時の戸籍の性別と同じ（排他選択肢）、2.別の性別だと捉えている、3.違和感がある

Q.あなたが捉えている「現在のご自身の性別」として最も近いものをお知らせください。（単一回答）

選択肢：1.男性、2.どちらかと言えば男性、3.どちらかと言えば女性、4.女性、5.Xジェンダー・中性・無性など、6.わからない・決めたくない・その他、
7.答えたくない

※集計上の詳しい区分については、p.9【調査におけるジェンダー区分の定義と分類】を参照のこと。

補足：本研究における「トランスジェンダーの定義」について（２／２）

➤ Xジェンダーについて

Xジェンダーとは、出生時に付けられた性別にかかわらず、性自認が男性／女性に二分できない人、男女の枠にとらわれない性のあり方の人のこと。性自認は中性や、男女どちらにも属さない無性、どちらにも属する両性など、さまざま。

なお、Xジェンダーは日本独特の呼称であり、近年ではノンバイナリーということばが一般的になりつつある。今回の調査では、性自認を問う設問にて「Xジェンダー、中性、無性など」または「わからない、決めたくない、その他」を選んだ回答者を「Xジェンダー」として分類した。

選択肢の「わからない、決めたくない、その他」は、本来「Questioning／クエスチョニング※¹」や「Queer／クィア※²」に該当するが、今回はトイレに関する調査であり、性自認が男女二元論に当てはまらないという観点から、すべて「Xジェンダー」に含めた。

➤ シスジェンダーについて：

出生時の戸籍性別および性自認の回答が一致している回答者を「シスジェンダー」とする。

性的指向は尋ねていない。

※1. クエスチョニングとは、自己のジェンダーや性的指向が決まっていない人や模索している人を指す。

※2. クィアとは、元は「不思議な」「奇妙な」などを表す侮蔑的な言葉だが、1990年代以降性的マイノリティ全体を包摂する用語として肯定的に使用されている。

WEB調査概要

STEP1：トランスジェンダーの割合、就業状況やトランスジェンダーに対する意識などの実態把握

調査種類	モニター調査
調査方法	インターネット調査／調査会社登録モニター(有職者)へ配信
調査対象	日本在住の有職者20～59歳
実施時期	2022年11月18日（金）～29日（火）の計12日間
総回答数	60,000人

STEP 2：トイレの利用実態や利用意向、レイアウトやサインに関する意識調査

就業状況等の条件に該当する人に対し、STEP 2 の調査を実施。

調査種類	モニター調査	
ジェンダー	シスジェンダー	トランスジェンダー
有効回答	男女各500人	FTM：50人、FTX：105人、MTX：83人、MTF：87人 ^注
	計1,000人	計325人

※調査実施協力：株式会社アビス

注：トランスジェンダー区分の詳細は、p.9【調査におけるジェンダー区分の定義と分類】を参照
※抽出条件詳細は、p.14【WEB調査概要：サンプリング一覧、STEP2への抽出条件】を参照

WEB調査概要：サンプリング内容

モニター調査：調査会社登録モニターを対象とした調査

- ・有職登録者に対して調査を依頼（専業主婦・主夫、学生、無職と回答した人は対象者から除外）
- ・STEP 1、STEP 2 の 2 段階の調査を実施。

STEP 1 サンプリング

- ・都道府県を全国 8 エリア（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州）に分け、政府統計※に基づき20～59歳人口をそれぞれ5歳刻みで構成比を区分。そのエリア年代別構成比に沿って計60,000人の回答を得た。
- ・ただし、20代の回答者数が少ないエリアについては、他の年代の回答者で補完を行った。
- ・回答者は、出生時の戸籍性別、それに対する違和感の有無および性自認の回答の組み合わせにより、「トランスジェンダー」と「シスジェンダー」に区分（p.10参照）。
- ・回答者のジェンダー内訳は以下のとおり。
 - シスジェンダー：計56,361人（シスジェンダー男性：28,595人、シスジェンダー女性：27,766人）
 - トランスジェンダー：計906人（FTM：87人、FTX：376人、MTX：234人、MTF：209人）
 - ジェンダー判別不能2,733人

※政府統計：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査 2022年1月」

※8エリア別の性別×20代～50代の構成比について、ウェイトバックあり／なしのデータと政府統計と相違があるか否かをカイ二乗検定（適合度検定）を実施。検定の結果、いずれも有意水準 5 %（誤差範囲：95%信頼区間）で棄却されなかったため、有意差は認められなかった。

STEP 2 サンプリング

シスジェンダー	・職場への出勤日数、職場のトイレ設置状況、就業するフロアの人数等に関する設問によりスクリーニングを行い、STEP2の対象者を抽出。 ・計1,000サンプル（20～59歳、性年代各125サンプル）の有効回答を得た。
トランスジェンダー	・職場への出勤日数、就業フロアの人数以外はシスジェンダーと同様のスクリーニングを行いSTEP2の対象者を抽出。 ・計325サンプル（FTM：50人、FTX：105人、MTX：83人、MTF：87人）の有効回答を得た。

WEB調査概要：サンプリング一覧、STEP 2 への抽出条件

【サンプリング一覧】

		STEP1 調査		条件により 対象者抽出 ⇒	STEP2調査	
		サンプル数	割合		サンプル数	割合
アンケート回答数		60,000	—		—	—
回答者 分類	シスジェンダー	56,361	93.9%		1,000 (※2)	75.5%
	トランスジェンダー	906	1.5%		325 (※3)	24.5%
	ジェンダー判別不能 (※1)	2,733	4.6%		—	—
合計		60,000	100.0%		1,325	100.0%

※1. 以下に該当する人を指す

- 出生時の戸籍の性別に対し、「違和感がある」、「別の性別と捉えている」と回答したが、性自認を問う設問で「どちらかといえば」も含めて「出生時の戸籍性別と同じ性別」と回答した人（1976人）
- 性自認を問う設問で「答えたくない」と回答した人（757人）

※2. 性年代均等割付で計1,000人抽出

※3. 内訳 = FTM : 50人、FTX : 105人、MTX : 83人、MTF : 87人

【STEP2 の調査への抽出条件】

主に働いている建物のトイレ設置状況	出勤日数	就業フロア人数（他社等も含む）
「建物内にトイレがない」、「建物で働いていない」、 「わからない」と回答した人を除く	シスジェンダー：2～3日／週 以上 トランスジェンダー：1日／週 以上	シスジェンダーのみ：30人以上

【調査実施機関】・調査企画・準備・実施・分析：トイレのオールジェンダー利用に関する研究会（金沢大学、コマニー、LIXIL）
・調査実施協力：株式会社アビス

【設問形式・回答者サンプル数についての備考】

- ・全員がすべての設問に回答しているわけではないため、設問により回答者サンプル数が異なる。
- ・単一回答項目：選択肢の合計値が100%となる（ただし、四捨五入による誤差あり）。
- ・複数回答項目：選択肢の合計は100%とならない場合がある。
- ・個別設問の全体サンプル数（n値）は、条件該当者のみの回答となっている設問もあるため、各ページを参照のこと。
- ・個別分析軸のサンプル数（n値）は、対象のみ抽出しているため、合計数は全体と一致しない。
- ・個別分析軸のサンプル数（n値） 30未満は参考値。

STEP 1 の回答者の属性（年代構成、居住地域構成比）

- 都道府県を全国 8 エリアに分け、政府統計に基づき20～59歳人口をそれぞれ5歳刻みで構成比を区分し、そのエリア年代別構成比に沿って配信した。ただし、20代の回答者が少ないエリアについては、他の年代で補完した。
- 回答者全体（20～59歳の有職者60,000人）における年代構成は、シスジェンダーでは20代の回答者が10%台と低く、30代、40代、50代はそれぞれ3割前後であった。トランスジェンダーでは30代が4割弱で最も多く、20代、30代の若年層が6割以上を占めた。
- 居住地域では、東北地方と中部地方で割合に差がみられ、東北地方はシス6.0%に対しトランス20.0%、中部地方はシス16.5%に対しトランス8.8%であった。

